

昭和63年8月2日第3種郵便物認可 平成17年7月1日発行（毎月1回1日発行）第255号



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2005.7

No.255

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



石川県舩倉島 3グループの記録

海老原美夫(さいたま市)

春と秋の渡り鳥で有名な石川県舩倉島。今春は、埼玉県支部のメンバーたちがそれぞれに誘い合わせ、日にちを変え、私の知っている範囲で3グループ出かけました。

グループAは、長嶋宏之氏ら3人が4月30日から5月3日まで、グループBは私達13名が5月11日から13日まで、グループCは佐久間博文氏ら6名が5月17日から19日まで(期間は島での探鳥期間)です。

この3グループの記録を合せたら、3週間に及ぶ長期間の定点調査になるのではないかと考え、リストを作ってみました。

全部の種は掲載できないものですから、個人的に目ぼしいと思われる種だけをピックアップし、本当は日付ごとのリストにしたかったのですが、これも誌面の都合で、グループごとのリストにしました。

●今季の状況は

かなり豪華なリストになりました。

「割と例年見られる珍鳥」ヤマショウビン、ヤツガシラは、丸印のないグループBの時期にも、他のグループで見た人がいますので、全時期を通じて見られたこととなります。

「比較的稀な珍鳥」イナバビタキ、マミジロキビタキ、シマノジコ、アカマシコは、早い時期(グループA、B)に観察されました。

私達グループBでは、近くでじっくり見られたマミジロキビタキ(表紙の写真)が特に人気で、これをこの旅の白眉と言ったら、オヤジギャグになってしまうでしょうか。

O氏は、「これを見ちゃったら、普通のキビタキはもうあまり見たくない」と言っていました。それは少し言い過ぎかも。同一個体なら、5月2日から12日まで10日間滞在したことになります。

一方、アカショウビンは5月12日、雨が降った1日だけ。まさに「雨降れ鳥」でした。

●雌雄による違いは

表には雌雄の違いまで書き込めなかったの

ですが、コマドリ、ルリビタキ、ジョウビタキの3種について、前の方ではオスも少し観察されましたが、中から後の方ではメスばかりという現象が見られました。要するに、早い時期にオスが渡って行って繁殖地での縄張りを確保し、後から渡ってくるメスを待ち受けるという生態が見えてきます。

●科による違いは

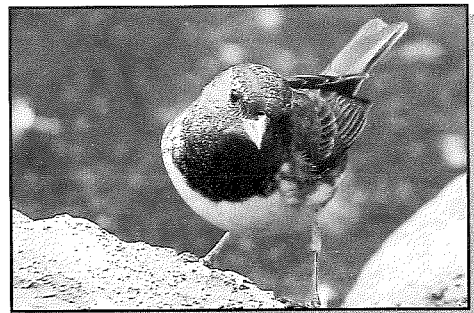
この表からの印象だけですが、種数では、タカ科からセキレイ科は後(グループC)の方が多く、ツグミ科は前の方(グループA)、ヒタキ科は後ろの方、ホオジロ科とアトリ科は前と中(グループB)あたりまでが多かったように見えますが、いかがでしょうか。

この表だけからあれこれ言うのは、論理的にはかなり乱暴な話になりますが、いろいろ考えてみるのは、結構楽しいものです。

●それにしても餌付けの鳥?

今年の舩倉島で驚いたのは、餌付けが多いことです。前はなかった脇道を少し入ると、カメラマンが作った餌場が現れます。全島餌付けの鳥という感じ。10数年前、一部の藪を切り倒してブラインドを張ったことが大問題になり、藪の中に踏み込むのも遠慮していたのに、今は至る所に踏み跡があり、藪が切られています。

それで旅の途中の鳥たちは餌にありつけるし、我々餌付けに関係ない鳥見人も、間近に鳥を見ることができるとは事実ですが、首をかしげる場面でした。



シマノジコも首をかしげて?

2005年 石川県舩倉島 観察鳥種一部のリスト

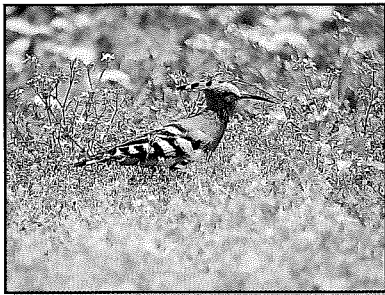
	科	種	亜種	グループA	グループB	グループC
				4月30日-5月3日	5月11-13日	5月17-19日
1	タカ	オオタカ		○		
2		アカハラダカ				○
3	ハヤブサ	ハヤブサ		○	○	○
4		チゴハヤブサ				○
5	ハト	アオバト			○	○
6	カッコウ	ジュウイチ		○		○
7		カッコウ				○
8		ツツドリ		○	○	○
9		ホトギス				○
10	フクロウ	コノハズク				○
11	カワセミ	ヤマシヨウビン		○		○
12		アカシヨウビン			○	
13	ブッポウソウ	ブッポウソウ				○
14	ヤツガシラ	ヤツガシラ		○		○
15	キツツキ	オオアカゲラ			○	
16	ヒバリ	ヒメコウテンシ			○	○
17	セキレイ	ツメナガセキレイ				○
18	サンシヨウクイ	サンシヨウクイ		○	○	○
19	モズ	アカモズ	シマアカモズ			○
20	ツグミ	コマドリ		○	○	
21		シマゴマ		○		
22		ノゴマ		○	○	○
23		コルリ		○	○	○
24		ルリビタキ		○	○	○
25		ジョウビタキ		○	○	○
26		ノビタキ		○	○	○
27		イナバビタキ		○		
28		マミジロ		○	○	○
29		トラツグミ		○	○	
30		カラアカハラ		○	○	
31		クロツグミ		○		
32		マミチャジナイ		○	○	○
33		ツグミ	ハチジョウツグミ	○	○	
34	ウグイス	ヤブサメ		○		
35		キマユムシクイ			○	○
36		カラフトムシクイ		○		
37		メボソムシクイ		○	○	○
38		エゾムシクイ			○	○
39		センダイムシクイ		○		○
40	ヒタキ	マミジロキビタキ		○	○	○
41		キビタキ		○	○	○
42		ムギマキ		○	○	○
43		オジロビタキ			○	○
44		オオルリ		○	○	○
45		サメビタキ			○	○
46		エゾビタキ			○	○
47		コサメビタキ		○	○	○
48	カササギヒタキ	サンコウチョウ		○		
49	ホオジロ	シラガホオジロ			○	
50		ホオアカ			○	○
51		シロハラホオジロ		○	○	
52		キマユホオジロ		○		
53		ミヤマホオジロ		○		○
54		シマアオジ			○	
55		シマノジロ			○	
56		ノジロ		○	○	
57		アオジ	シベリアアオジ		○	
58		クロジ		○	○	○
59	アトリ	アトリ		○	○	
60		マヒワ		○		○
61		アカマシロ		○		
62		ベニマシロ		○		
63		イカル		○	○	○
64	ムクドリ	コムクドリ		○	○	○
65		カラムクドリ		○		○

夢見心地の鳥見と痒み～初めての舢倉島の記録

長野誠治(さいたま市)

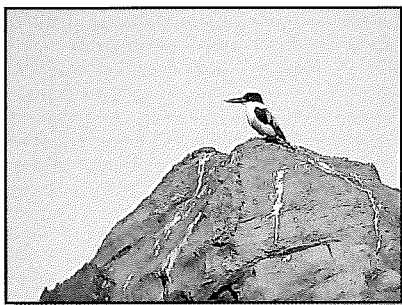
4月30日から5月3日にかけて(2ページで言うところのグループAで)、初めて舢倉島に行ってきました。この時期舢倉島に何回も行っている方の話によれば、今回のように珍鳥が数多く見られたのは、久々のことだったようです。

初日、島に到着後小学校の校庭に行くと、いきなりヤツガシラが出現。地上に降りて餌を啄み、羽繕いする姿を堪能。



ヤツガシラ

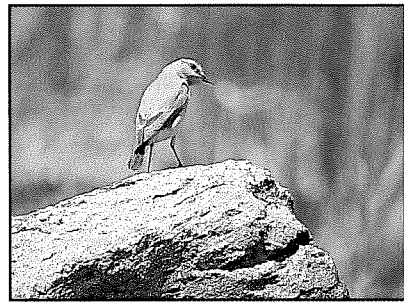
2日目はヤマショウビンを追いかけて、早朝から島の中を駆け巡る。途中、林の中ではサンコウチョウの♂2、♀1が目の前4~5m先をフワフワと飛び、枝に止まる姿にビックリ。



ヤマショウビン

3日目も早朝から、イナバビタキが灯台裏の草むらに出たと聞いて直行。すぐ近くを飛び回ったり、杭や石の上で休んだりする2羽を確認。

4日目は、マミジロキビタキを人家の庭で見



イナバビタキ

つける。デジスコで写真を撮り、キビタキとは違った美しさにうっとり。

渡りの途中で体を休めに島に寄った鳥達なので、疲れていて、少々人間が近づいても逃げません。マミジロ♀などは、小道で、人の行く2~3m程先を、逃げもせずチョコチョコ歩いていました。

舢倉島は竜宮城のような夢見心地のところと、帰ってからも写真を整理したり、土産話を鳥仲間にしったりして、余韻を楽しんでいました。

しかし、帰宅後4~5日経った夕方に、突然手の甲や腕にかなりひどい痒みを感じました。舢倉島でヌカカに刺されたようです(両腕でなんと30カ所近くも)。島に居る間は、同行のメンバーの痒みをよそに全く症状も無く、油断していた付けが回ってきたようです。免疫がなく、潜伏期間が長かったのかもしれませんが。その後、しばらく職場や睡眠中でも手や腕をかきむしり、しつこく発疹が残り、苦悩の日々が続きました。

楽しい思い出と共に今回得た教訓:

- ① 油断せずに防虫剤をしっかりと塗ること(できれば手袋も持参)、
- ② 携帯電話の対応(D社のMしか島内では通話ができません)。早速、家族からの「時代に逆行」という声をよそに、D社のFからMに切り換えました。

2005年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：2005年4月29日 9：30～11：10
 場所：さいたま市 大久保農耕地
 天候：快晴

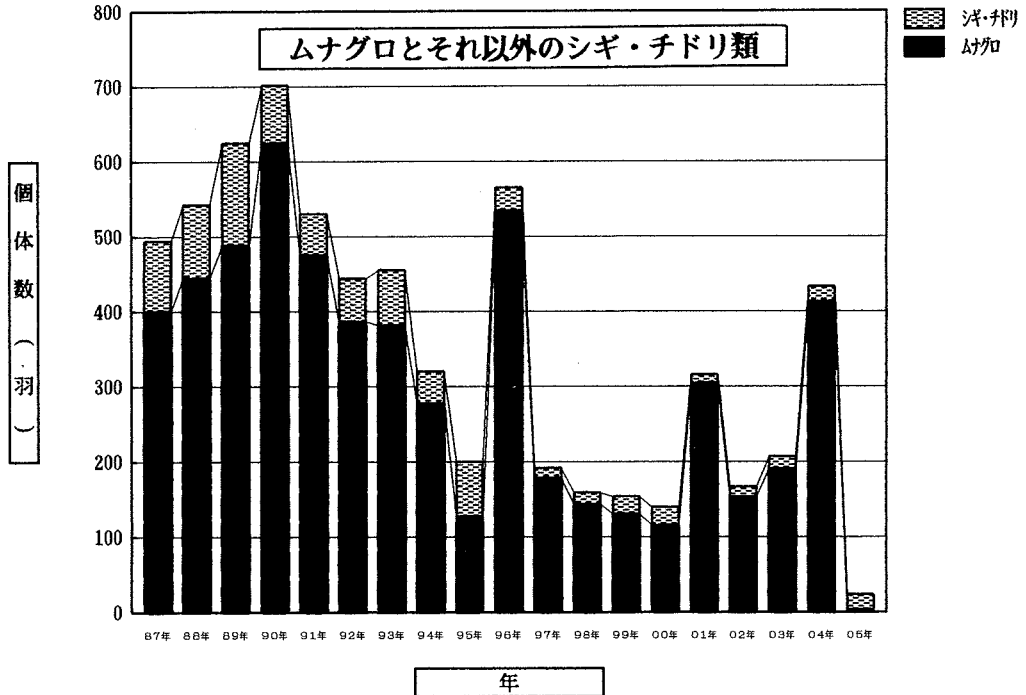
比較すると種数で2種、個体数では409羽少なくなりました。

個体数の大幅な減少は、昨年に比べるとムナグロが410羽少ないためです。また、今年は春のカウントで初めての個体数が100羽を下まわりました。しかし、4月28日には70羽前後が、5月2日には245羽のムナグロが観察されたとの報告もありました。

当日は南からの高気圧に覆われ、さいたま市でも30℃を越える真夏日となりました。また連休の初日にもかかわらず、支部会員14名の協力が得られました。

観察された種数・個体数は4種23羽で、今年の春と

(石井 智)



春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	合計
調査日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	
天候	晴れ	雨	晴れ	曇り	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	快晴	快晴	
1) タマシギ				2																2
2) コチドリ		5	1	2	1	1	4			7	1		1	2	5	2	6	9	4	4
3) シロチドリ					1															1
4) ムナグロ	400	444	488	624	474	386	381	277	127	534	178	143	130	115	304	153	190	413	3	5764
5) ケリ																	1			1
6) キョウジョシギ	3	7	2	2				2	1			2	4		2	1		1		27
7) トウネン				1																1
8) ウズラシギ	2		2		1	1														6
9) ハマシギ	2		10	30			24	1		9										76
10) アオアシシギ			4		2	1	7	3					7							24
11) タカブシギ	50	52	69	16	4	6	6	13	25	5			1	5	2	1	1	6		262
12) キアシシギ	2			3								2	1						2	10
13) イソシギ	2		1									1						1		5
14) オグロシギ				1																1
15) チュウシャクシギ	12	6	7	8	3	1	13	12	11	3	10	2	5	11	4	2	3	6	3	122
16) コシヤクシギ				1																1
17) タシギ	14	30	39	11	43	36	21	10	26	12	3	6	3	3		1	2		13	273
18) オオヅシギ																1	1			2
シギ類	1	1				3	2	1	2			1								11
19) アカエビレアシギ		1																		1
シギ類計						5														5
合計	493	542	624	701	528	443	454	319	199	564	191	158	153	139	315	166	206	432	23	6650



野鳥情報

蓮田市蓮田 ◇2月20日、カシラダカの大群約500羽、カワラヒワ約50羽、スズメ約100羽。これらがムクドリやハクセキレイと共に火入れして黒く焼けた田んぼ2枚に集まっていた。まさにラッシュアワー。3月4日、ウグイス1羽、大雪の降った今日、鳥たちにはさぞ難儀だろうと思いつつ歩いていると、公園のモミの木から「キェキェケケケキョキョ」のような声。何とウグイスの初音でした（本多己秀）。

蓮田市黒浜 ◇2月26日、ゴルフ場の森でオオタカ、ヒガラ2羽、エナガ3羽。療養所内でハイタカ（鈴木紀雄）。◇3月1日、療養所内でアカハラ2羽、シロハラ1羽、シメ1羽、カケス2羽、ツグミ、ジョウビタキ、カシラダカ、アオジ。3月9日、黒浜沼でアオゲラ1羽、沼のそばの屋敷林に飛来し「ピョーピョー」と大声で繰返し鳴いていました。療養所内でキクイタダキ1羽、杉の樹冠を飛回り、黄色い花粉を大量に飛散させていました。鳥は花粉症にならないのでしょうか。トラツグミ1羽、アカゲラ1羽、シロハラ2羽、アカハラ1羽など。3月12日、療養所内でキクイタダキ7羽、朝霧の中、2羽は杉の木に、5羽は赤松の木に。アトリ3羽、上空にオオタカ1羽、コジュケイ♂2羽、縄張りをめぐって、激しく鳴き交わっていた。カケス、カシラダカ多数、アオジ、オオジュリン、ジョウビタキ♂など。3月15日、同所でルリビタキ♀2羽、アカハラ1羽、シロハラ1羽、



コムクドリ・戸隠5月（長谷川訓寿）

カケス2羽、シメ、ウグイス、ジョウビタキ、カシラダカ多数、アオジ多数、コゲラなど（本多己秀）。

蓮田市笹山 ◇3月18日、マヒワ約10羽、農道に縦に列をなして並んで休んでいた。タヒバリ約10羽、ヒバリ2羽、ツグミ7羽、ハシボソガラス7羽、ハクセキレイ5羽、これらが、耕起中の耕耘機にまわりついて、餌を探していた（本多己秀）。

伊奈町小室 ◇3月1日、チョウゲンボウ2羽、青空の中を♂♀がもつれるように旋回し、田の中の鉄塔にとまったかと思うと、またヒラヒラと追いかけ合う。春が来た事を感じた（本多己秀）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇2月21日、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、セグロカモメ、ユリカモメ、キセキレイ、モズ、アカハラ、シロハラ、カシラダカ、アオジュリン、ベニマシコ♂1羽♀2羽、♂若鳥2羽、シメ、カケスなど34種。2月26日、キジの声、久しぶりのルリビタキ♀、クロジ♂は越冬中、ベニマシコ、カケスは声のみ。3月3日、イカルチドリ、イソシギ、タシギ、タゲリ3羽、セグロカモメ5羽（内1羽は若鳥）、ヤマシギ1羽、村国池左奥の湿地を歩いていた。カワセミ、番作りの季節か「チッチッチ」と普段聞かない声で鳴いていた。セグロセキレイの番か？タヒバリ、モズ、アカハラ、シロハラ、ヤマガラ1羽、ホオジロのさえずり、カシラダカさえずる。アオジ、クロジ、オオジュリン、シメ、カケス、オナガ16羽など42種。ハシボソガラス約30羽のタカ柱ならぬカラス柱。3月15日、コゲラの警戒音で上空にオオタカ。久しぶりのジョウビタキ♂、ヤマガラ、カシラダカ、アオジがさえずる、クロジ（鈴木紀雄）。

岩槻市加倉5丁目 ◇3月6日、中学校への通学路途中のコンクリート水路でタシギ1羽、クサシギ1羽。去年の10月からずっといて、毎日朝夕見かけます。2羽ずついる時もあります（藤原育実）。◇3月27日、オオタカ1羽、上空通過（藤原真理）。

春日部市内牧 ◇2月26日、オオタカ若鳥にカラスがモビング。カシラダカの群れ、カ

ワセミ、ベニマシコ（鈴木紀雄）。

春日部市赤沼 ◇3月4日、国道4号バイパス沿いにあるグリーンセンター東のグラウンドでタゲリ2羽（佐藤宏）。

庄和町西宝珠花 ◇3月1日、タゲリ約50羽が宝珠花橋下のグラウンドいっばいに広がって「ミュー、ミュー」の大合唱（佐藤宏）。

八潮市大曾根 ◇3月6日、綾瀬川土手でヤツガシラ（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区大谷 ◇2月21日、大谷環境広場でタシギ10羽、イカルチドリ1羽。2月28日、タシギ3羽、イカルチドリ6羽。3月5日、クサシギ1羽、タシギ1羽、タゲリ1羽、イカルチドリ1羽。3月15日、タシギ3羽、コチドリ2羽（鈴木紀雄）。

さいたま市西区島根 ◇2月24日午後3時40分頃、文明堂裏の田んぼ付近、草焼きをしたばかりの畦に、タヒバリ15羽ほどが、ツグミ、スズメと一緒に虫を食べていた。未だ煙が出ている直ぐ近くまで近づいて食べている。こんがり美味しい、焼きたての虫を探しているのかも知れない。カワラヒワ70羽以上の群れが田んぼに降りているがなぜか焼けた畦には近づかない。細い水路にタシギ2羽（増田徹）。

さいたま市緑区 ◇3月3日、数日前から見沼代用水西縁の大牧橋にキセキレイが飛来。見沼田んぼの灌木の中に シロハラが居っている。芝川土手の萱のなかにカシラダカ無数。カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、シジュウカラ、オオジュリン、シベリアジュリン？ 芝川にカルガモとコガモに混じってパン、オナガガモ各1羽、マガモつがい2組。畑を耕耘機で耕す後を待ってモズとヒバリ、ツグミが採餌（落合英）。

さいたま市見沼区御蔵 ◇3月5日、枯れ杉のてっぺんでハイタカ1羽（鈴木紀雄）。

菫蒲町小林 ◇3月2日、電線や耕作地に300羽のカワラヒワ、その中に数羽のニュウナイスズメが混じっていた（鈴木紀雄）。

川里町広田 ◇2月21日午後1時頃、川里町役場の西方で、電線に約30羽のミヤマガラス。なかに、後頭部から胸にかけて白色のコクマルガラスが1羽いました。斜め後ろから肉眼で、電線を見上げる形でした。陽

光を受けてきれいに見えました（内藤義雄）。

川越市西川越 ◇2月24日午前10時10分、入間川の土手でアオバト♀1羽。目の前を横切って土手の上の桜の木にとまった（佐久間博文）。

児玉郡神川町 ◇3月1日、県営アカシアの湯裏の雑木林でアトリ5羽、エナガ6羽、シメ2羽。2月26日、同所でヒレンジャク3羽、ミヤマホオジロ♂2羽♀1羽、上空でノスリ、ハヤブサ各1羽飛翔（町田好一郎）。

滑川町森林公園 ◇3月7日、気温が上がってにわか春めいてきた。ウソの姿を求めて歩いたが残念！ 見つけられなかった。しかし花木園の桜の木にはまだミヤマホオジロが居た。ならばカヤクグリはどうしてるかな、と思って疎林地帯を覗いて見ると、留守番とおぼしきトラツグミが済みなさそうにこちらを気にしていた。かえて見本園ではイカルが1羽、キツツキに似たような「キョッ、キョッ」という声を出していた。シジュウカラとヤマガラはさえずっていた。ルリビタキの姿は確認できなかった。もう帰っちゃったのかな（中村豊己）。

本庄市総合運動公園 ◇3月8日午前9時、シルクドーム上空でオオタカ成鳥♂1羽、ハシブトガラスとかなり長時間バトル！ 同所でチョウゲンボウ♂1羽、芝生の上でハクセキレイを捕食、むしられた羽毛が風に舞い、桜吹雪みたいに漂っていた（町田好一郎）。

東松山市野本 ◇3月9日、午後2時45分頃、ウォーキング中にウグイスの初鳴きを聞いた。個人的な限られた地域での観察記録ですが、昨年より10日遅れの初鳴き。最近では1996年の3月15日に次ぐ遅い記録で、例年より1週間くらい遅れているように思います（中村豊己）。

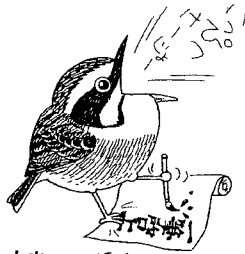
児玉郡神泉村神流湖 ◇3月13日、ヤマセミの♂、♀各1羽、ダム放流ゲート上部に仲良く並んで止っていた（町田好一郎）。

表紙の写真 スズメ目ヒタキ科キビタキ
属マミジロキビタキ 撮影：海老原美夫



行事案内

(富士鷹なすび)



ホオジロ類白
Emberiza cioides
16.5cm

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月3日(日)

集合：午前 8 時 15 分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前 8 時 30 分、板倉町総合運動公園入り口。

交通：東武日光線新越谷 7:11→春日部 7:25→栗橋 7:54→板倉東洋大前 8:06 着。JR 宇都宮線浦和 7:00→大宮 7:07→栗橋 7:41 着にて東武日光線乗り換え。

解散：午前 11 時 30 分ごろ、アシ原浄化ゾーンにて。

担当：橋口、玉井、内田、田邊、中里、四分一

見どころ：夏の暑さが厳しい中で、比較的涼しいアシ原浄化ゾーンを回ります。オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカが合唱するなか、ヨシゴイ、ササゴイも姿をあらわしてくれます。カッコウも托卵を狙って鳴いています。帽子と飲み物、それに雨具もお忘れなくお出かけください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月10日(日)

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：後藤、森本、中里、島田、和田、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、大澤、藤田、

栗原、飛田、新井(巖)

見どころ：梅雨真っ最中の探鳥会となりますが、小鳥たちは無事に育った幼い鳥を連れ、元気に飛び回っています。この時期、暑さしのぎの水浴びをよく見かけます。小鳥たちの多様な場面を探してみましよう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月10日(日)

集合：午前 9 時 45 分、森林公園南入り口前。
交通：東武東上線森林公園駅から、森林公園南口行き 9:25 発バスにて終点下車。

入園料：参加費の他に 400 円(子供 80 円)

担当：佐久間、内藤、岡安、藤掛、大坂、青山、喜多、山田(義)、高橋(優)、藤沢、中村(豊)

見どころ：うっとうしい梅雨も終わりに近づいてきました。緑陰を歩き、子育てを終えた小鳥たちやホトトギスの声などを聞きながら、国蝶オオムラサキを探しましょう。

ご注意：集合時間が早くなっています。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月16日(土) 午後 3 時～4 時ころ
会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、森、小菅、赤堀、新部、青木

見どころ：そろそろ夏休み。見沼たんぼも梅雨明けが近い。子育てが一段落、鳥たちも静かになった。日差しを避けて斜面林から代用水沿いの小道をゆっくり歩いてみよう。暑い夏でも鳥たちは皆さんを待っています。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月24日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光、山田（義）

見どころ：鳥の少ない季節です。身近にある草花や、昆虫などの自然をまとめて楽しみましょう。日陰の少ない河原を歩きます。暑さ対策をしっかりと！帽子や飲み物は必携です。

.....

戸隠飯綱高原探鳥会

檜山大介（さいたま市・小学5年）

5月21日から22日の戸隠飯綱高原探鳥会に、参加させていただきました。ぼくにとって、とまりがけの探鳥会は初めて、高原での探鳥会も初めてで、どんな鳥たちに出会えるのか、行く前からワクワクしていました。

最初に行った飯綱高原では、ヒガラの声がぼくたちをむかえてくれました。今期待していた鳥は、キビタキです。そのキビタキには、たくさん出会うことができました。声は「ホイヒー-ロホイヒー-ロ」と鳴いていて、白いはんもん、黄色いのどがよく目立っていま

した。他にも、ゴジュウカラなどのカラ類、キセキレイが見られました。

それから宿にもどり、夕食を食べました。たくさん歩いたので、とてもおいしかったです。

食じの後は、大人の人たちと鳥の話をしたり、菱沼さんのとったビデオを見たりして、とても勉強になりました。

翌朝は3時に起きて、越水が原へ行きました。こんなに早く起きたのは、はじめてです。くらいうちは、ホトトギスやカッコウしか鳴いていませんでしたが、耳をすましているうちに鳥の声も多くなり、フクロウの声も耳にしました。

明るくなってから、森林公園に行きました。ウグイスやホトトギスの鳴く中、ミズバショウやニリンソウがたくさんさいていました。参加した人たちは、鳥のことだけでなく、花のこともとてもよくしていました。

それからつがいのキバシリがすがたをみせ、ひなにせっせとえさを運んでいました。

休けい中に、コムドリがすがたをみせました。写真で見ると、羽がかがやいて見えました。やっぱり、実際に目で鳥を見るのが一番だと思います。

歩いていたら、コルリがぼくの前を横切り、3mほど先にとまりました。その青いすがたは、今でも印象深いです。

クロツグミがキビタキの鳴きまねをしていました。戸隠奥社で、ミソサザイの音が、どの鳥にも負けないくらい大きく鳴いていました。オオルリは木のてっぺんで、きれいに鳴いていました。

その他にも、たくさんの鳥に会えました。最後の鳥合せて、55種となりました。やはりふだん見られない鳥たちのすがたや声を聞くことができ、とてもいい思い出になりました。

とても楽しい2日間でした。また多くの探鳥会に出て、鳥たちとの出会いを楽しみにしたいと思います。

リーダーをはじめ、みなさんにお世話になりました。ありがとうございます。



行事報告

3月6日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 35名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン オオバン タシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 改装できれいになった環境学習館(旧農村センター)をスタート。上沼、芦原では、底冷えする曇り空のせいか、鳥の動きは悪かったが、定番の鳥はほぼ見ることができた。最近では出ていなかったヒガラとベニマシコを見た後、蛍の里でカワセミがポーズをとってくれて大騒ぎ。カワセミの人気はすごい。(玉井正晴)

3月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 37名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 春から冬に戻ってしまった。寒風の中、梅にノスリ、枯れ草にキジ、ベニマシコ、水面にはホオジロガモ、ミコアイサが出現して、風の子パーダーも満足。足元には、今年もホトケノザ、オオイヌノフグリが咲いていた。(島田恵司)

3月13日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加: 43名 天気: 晴後曇

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ オオタカ チョウゲンボウ キジ バン オオバン タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 季節を感じるサンシュユの黄色い花に見送られて出発するが、鳥の姿はまばら。又、冷たい強風に皆沈みがち。気持を立て直し、まず地味ながらタヒバリをじっくり観察する。その後、カシラダカ30羽程の群れが現れる。正直これは救いだった。続いて、猛禽類、キジ、カワセミがちょっとした間だが顔を出してくれた。最後は、自然公園の池のカモたちを間近で観察して無事終了する。

(工藤洋三)

3月13日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 31名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ バン オオバン タシギ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 予想に反して強い北風の寒い天気だった。これでは鳥も隠れて出てこないのではと心配しながら出発したが、公園の調整池で水辺の鳥のスター、カワセミが見られたのに元気をもらい、寒風の吹く田んぼ道に勇んで出撃。2度も姿を見せたチョウゲンボウや目の前の畑に集まって来て悠々と餌をとっているシラコバトをじっくり観察できた。早めに上がって、公民館の研修室で鳥合わせ。短時間ながら参加者の数を上回る出現鳥種で、リーダーはもちろん、参加者にも、先程までの寒さを忘れさせてくれた。

(田邊八州雄)

3月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

新井浩、江浪功、榎本秀和、海老原教子、尾崎甲

四郎、後藤康夫、佐久間博文、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、百瀬修

3月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：54名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ オカヨシガモ コジュケイ キジ バン オオバン コチドリ タシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 芝川の改修工事が新宿橋まで進んできた。影響を心配していたが出現鳥も多く安心。コースを少し変えて芝川と代用水の間の土の道を歩いたので、参加者もホトケノザなど小さな草花を見て楽しんだ。オカヨシガモが出現して、探鳥会での出現数は116種となった。(楠見邦博)

3月20日(日) 坂戸市 高麗川

参加：40名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) お彼岸の寒い日、車で参加者が27名と多かった。タクシーで参加した人も。スマトラ沖地震の津波で、支部会員の米澤園子さんが、スリランカで犠牲になったことを紹介。ご主人の正勝さんが参加されたので、ご挨拶いただいた。城西大学グラウンド脇で、カワセミ、イカルチドリ、バン等を観察。毎年この探鳥会から聞こえるウグイスの美声、キジも負けずにケーンと。城西中学校校庭のケヤキで100羽ほどのイカルが大合唱して歓迎。ミソサザイの初認に興奮。オオタカに見送られながらの解散と、素晴らしい探鳥会だった。(藤掛保司)

3月27日(日) 栃木県 日光東照宮裏山

参加：53名 天気：晴

トビ ノスリ クマタカ キジバト コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ジョウビタキ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ ベニマシコ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 長い間修理中だった神橋の覆いが取れて美しく赤い漆が塗られた姿を現した。それを祝福したのか、カワガラスのみならずミソサザイまで大谷川で出現してくれた。稲荷沢沿いでは、上空のクマタカや高い梢で動くカラ類を追いかける時間が長く、首を鍛える探鳥会だった。(玉井正晴)

3月27日(日) 長瀬町 宝登山

参加：32名 天気：晴

トビ オオタカ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 前日に下見ではさっぱり出ず。当日、天気よし、風無し。期待と不安で出発。宝登山神社までの途中、春の使者ツバメ1羽、オオタカが上空に1羽と、なかなかの出だしと思ったが、後が続かず。初夏を思わせる暑さに、山道を登るにつれて、皆さん汗だく。しかし、山頂に着いてみれば、ロウバイ、梅林の花々と、秩父の山々のパノラマを見て、皆さん気分爽快に。中にはベニマシコを見られた人もいた。鳥が余り出なくて残念だったが、参加してくれた皆様、お疲れ様でした。(井上幹男)



カイツブリ (古澤洋子)



ノゴマ (松村禎夫)



●研究部から調査ご協力をお願い

5月号5ページでお知らせした第2次県内野鳥分布調査、はがきを今月号に同封しました。

今年5月10日から7月10日までの間、県内で見られた鳥の種類と場所を、はがきに書いてお送りください。ご自宅、朝の散歩道、職場、学校など、県内であれば、どこでもOKです。

今回の注目種は特定外来生物に指定されたガビチョウ。これについては特に漏れなく情報をお願いします。

●滋賀支部が発足

5月28日(土)に開催された理事会において、滋賀支部の設立が認可され、89番目の支部になりました。同県は全国で唯一支部のない県でした。従来同県内に住みながら京都支部の会員として活動していた人たちが、柳生会長の激励を受けて、新支部を設立したものです。

●普及活動

5月19日(木)本庄市小山川付近で開催された同市立北泉小学校4年生の総合的な学習の時間「愛鳥週間の野鳥達」で、町田好一郎が指導

しました。

5月22日(日)小川町金勝山で開催された県立小川元気プラザ主催「バンガロー大集合、青い鳥探し」で、後藤康夫、青山紘一、新井巖、中村豊己、千鳥康幸が指導しました。

●久しぶりにごめんなさいコーナー

前月号「野鳥記録委員会の情報」中、カモメ類の学名として「Lalus」とあるのは「Larus」、ヒレアシシギ類の学名「Phalalopus」とあるのは、「Phalaropus」の誤りでした。

●事務局の予定

- 7月2日(土) 編集部・普及部・研究部会議。
- 7月9日(土) 8月号校正(午後4時から)。
- 7月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 7月17日(日) 役員会。

●会員数は

6月1日現在2,346人です。

活動報告

- 5月14日(土) 6月号校正(海老原美夫・大坂幸男・佐久間博文・志村佐治・藤掛保司)。
- 5月15日(日) 役員会(司会:田中幸男、各部の報告・モニタリングサイト調査への参加について・総会準備・その他)。
- 5月23日(月) 6月号を発送(倉林宗太郎)。
- 5月28日(土) 理事会・評議員会に出席(常務理事:海老原美夫、評議員:橋口長和、傍聴人:藤掛保司・佐久間博文)。

編集後記

庄和町南部の夏鳥調査に取り組んでいる。カッコウはあちこちで、アオバズクもいる、ツミは繁殖、そしてシラコバトが確認できたことが、何よりうれしかった。土地の人との会話が、楽しみを倍にしている。夏鳥調査は7月10日まで。ぜひ、皆さんも。(山部)

しらこぼと 2005年7月号(第255号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社